

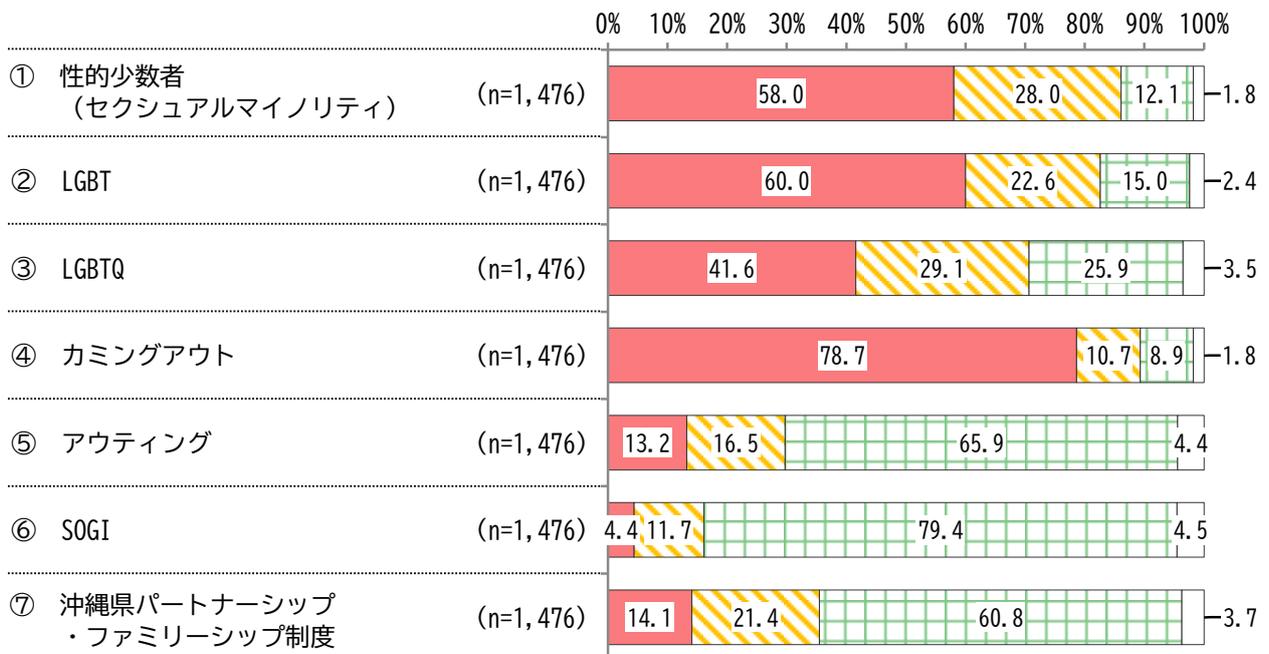
7. 性の多様性について

(1) 性の多様性に関する言葉の認知度

問 22 あなたは、次にあげる①～⑦までの「性の多様性」に関連する言葉について知っていますか。
(○はそれぞれに1つ)

- 全体でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が最も高いのは【④カミングアウト】で78.7%となっている。次に【②LGBT】が60.0%、【①性的少数者（セクシュアルマイノリティ）】が58.0%となっている。「聞いたことはあるが、意味は知らない」の割合が最も高いのは【③LGBTQ】で29.1%となっている。続いて【①性的少数者（セクシュアルマイノリティ）】が28.0%、【②LGBT】が22.6%となっている。「知らない」の割合が最も高いのは【⑥SOGI】で79.4%となっている。次に【⑤アウティング】が65.9%、【⑦沖縄県パートナーシップ・ファミリーシップ制度】が60.8%となっている。

■ 聞いたことがあり、意味も知っている ■ 聞いたことはあるが、意味は知らない
□ 知らない □ 無回答

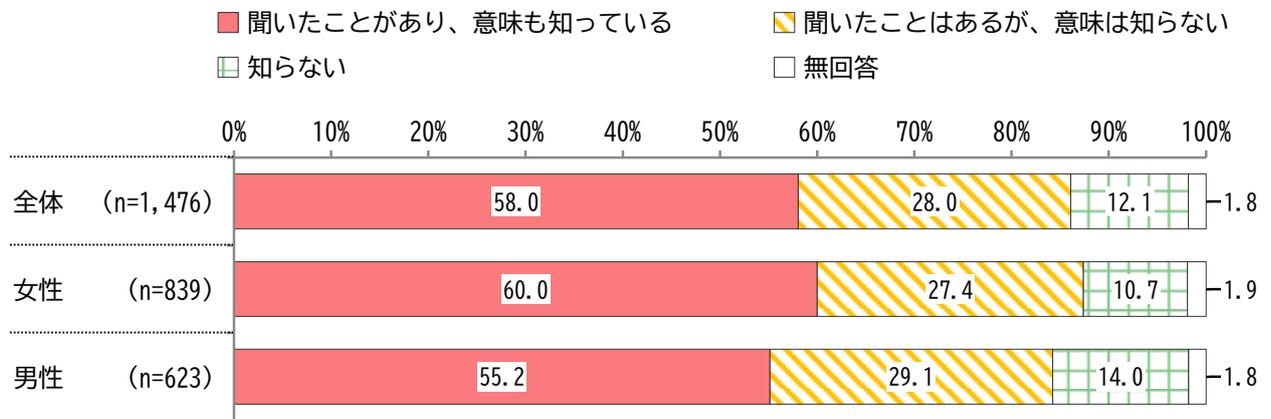


セクシュアルマイノリティ	同性が好きな人や、割り当てられた性別に違和感を覚える人（性同一性障害を含む）などの人々のことをいいます。「性的マイノリティ」ともいいます。
LGBT	L（レズビアン）：女性の同性愛者 G（ゲイ）：男性の同性愛者 B（バイセクシュアル）：両性愛者 T（トランスジェンダー）：割り当てられた性別に違和感を覚える人
LGBTQ	LGBTにあてはまらない人も含めた全ての性的少数者を表す言葉
カミングアウト	自分が性的マイノリティであることを打ち明けること
アウティング	本人の同意なしにその人のセクシュアリティを勝手に公表すること
SOGI（ソジ）	性的指向（好きになる相手の性）と性自認（こころの性）を意味する言葉で、全ての人が持っているものです。
沖縄県パートナーシップ・ファミリーシップ制度	お互いを人生のパートナーとして認め合ったお二人が、日常生活において継続的に協力しあうことを約束した関係であることを県に対して届出し、県がその届出書を受理したことを証明するものです。

① 性的少数者（セクシュアルマイノリティ）

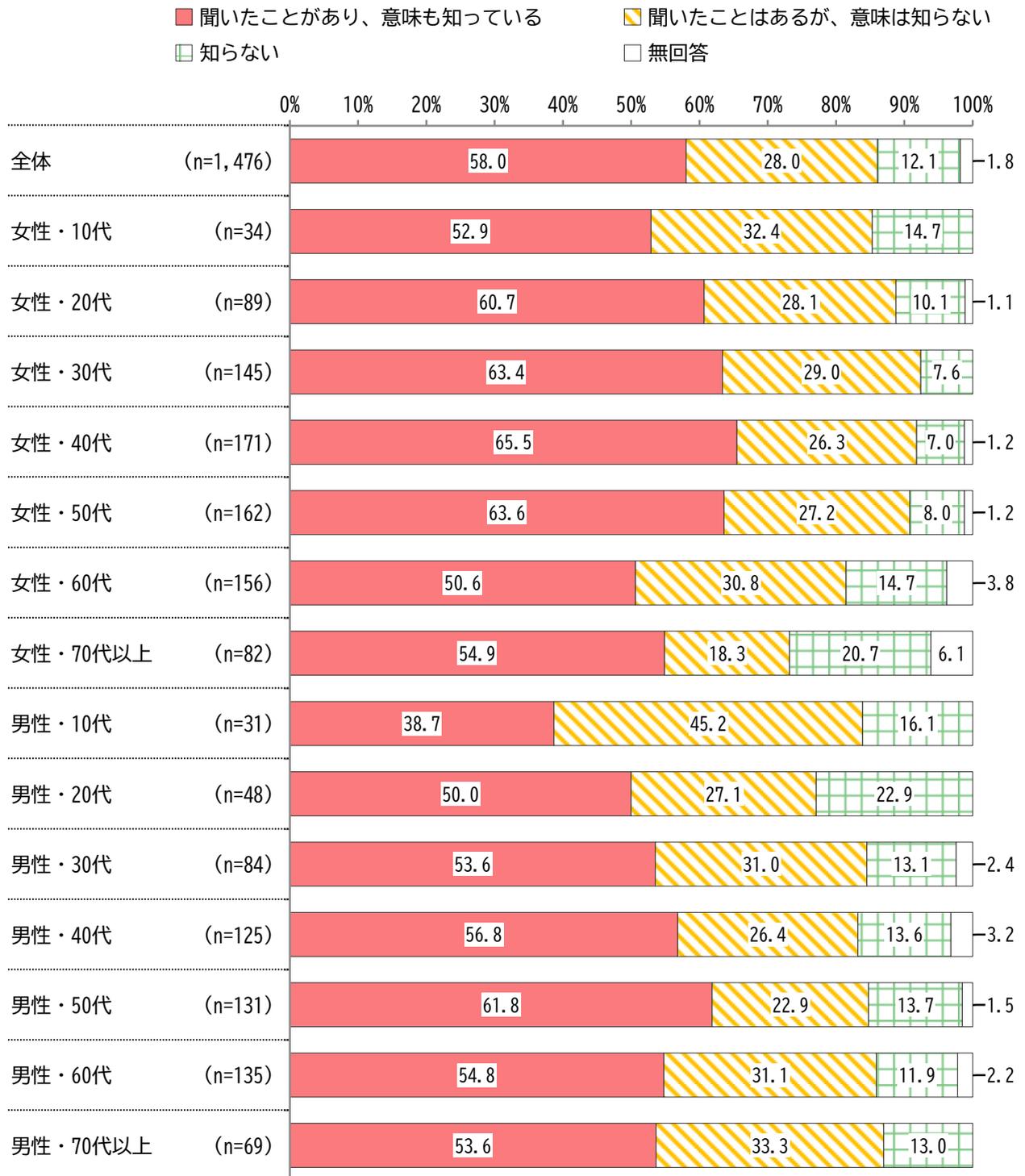
【性別比較】

- 性別でみると、女性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が60.0%で最も高く、男性では55.2%となっている。男性は「知らない」が14.0%で女性の10.7%より3.3ポイント高い。



【性・年代別比較】

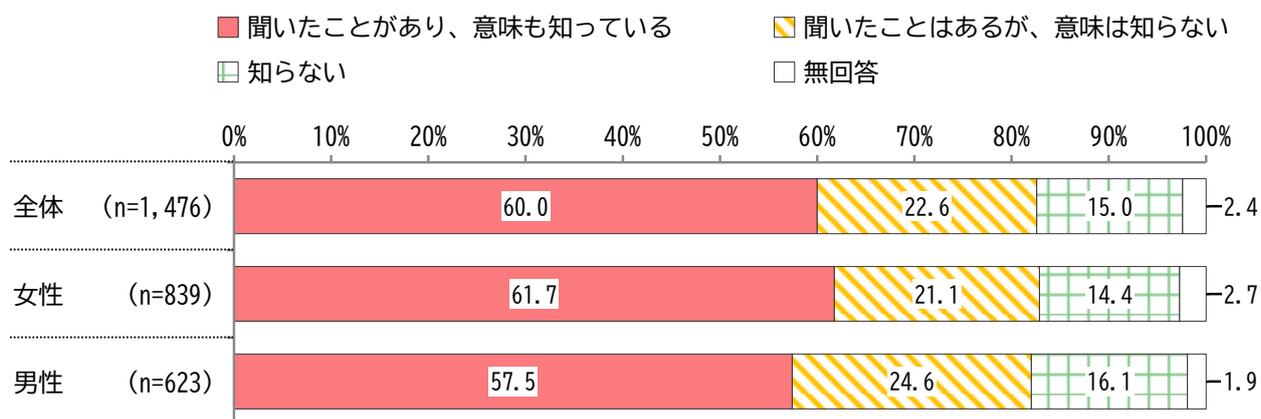
- 性・年代別でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は女性では40代が65.5%で最も高く、30代と50代も63%台となっている。男性では50代が61.8%、40代が56.8%となっている。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性・10代が45.2%で最も高く、女性・10代が32.4%となっている。「知らない」は女性・70代以上が20.7%、男性・20代が22.9%が高い。



② LGBT

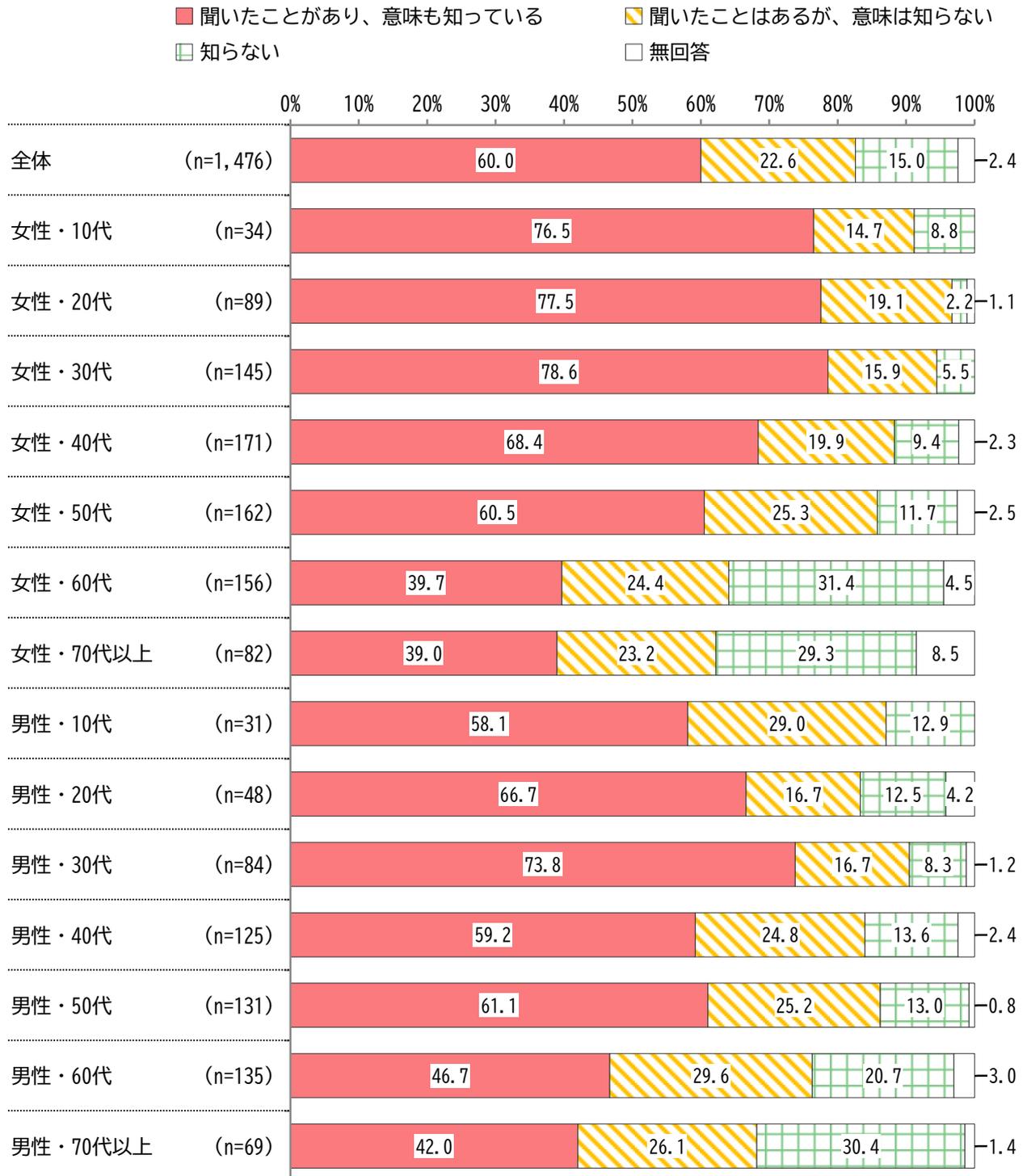
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が61.7%で最も高く、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は21.1%となっている。男性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が57.5%で最も高く、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は24.6%となっている。「知らない」は女性14.4%、男性16.1%となっている。



【性・年代別比較】

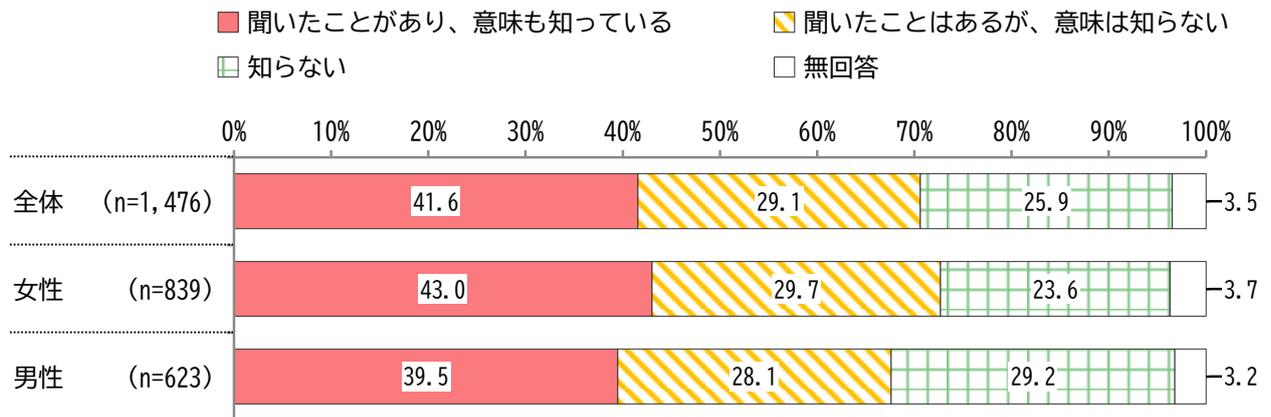
- 性・年代別でみると、女性・20代では「聞いたことがあり、意味も知っている」が77.5%で高く、女性・30代も78.6%と高い水準となっている。女性・60代では「聞いたことがあり、意味も知っている」が39.7%にとどまり、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が24.4%となっている。男性・30代では「聞いたことがあり、意味も知っている」が73.8%で高く、男性・70代以上では42.0%となっている。



③ LGBTQ

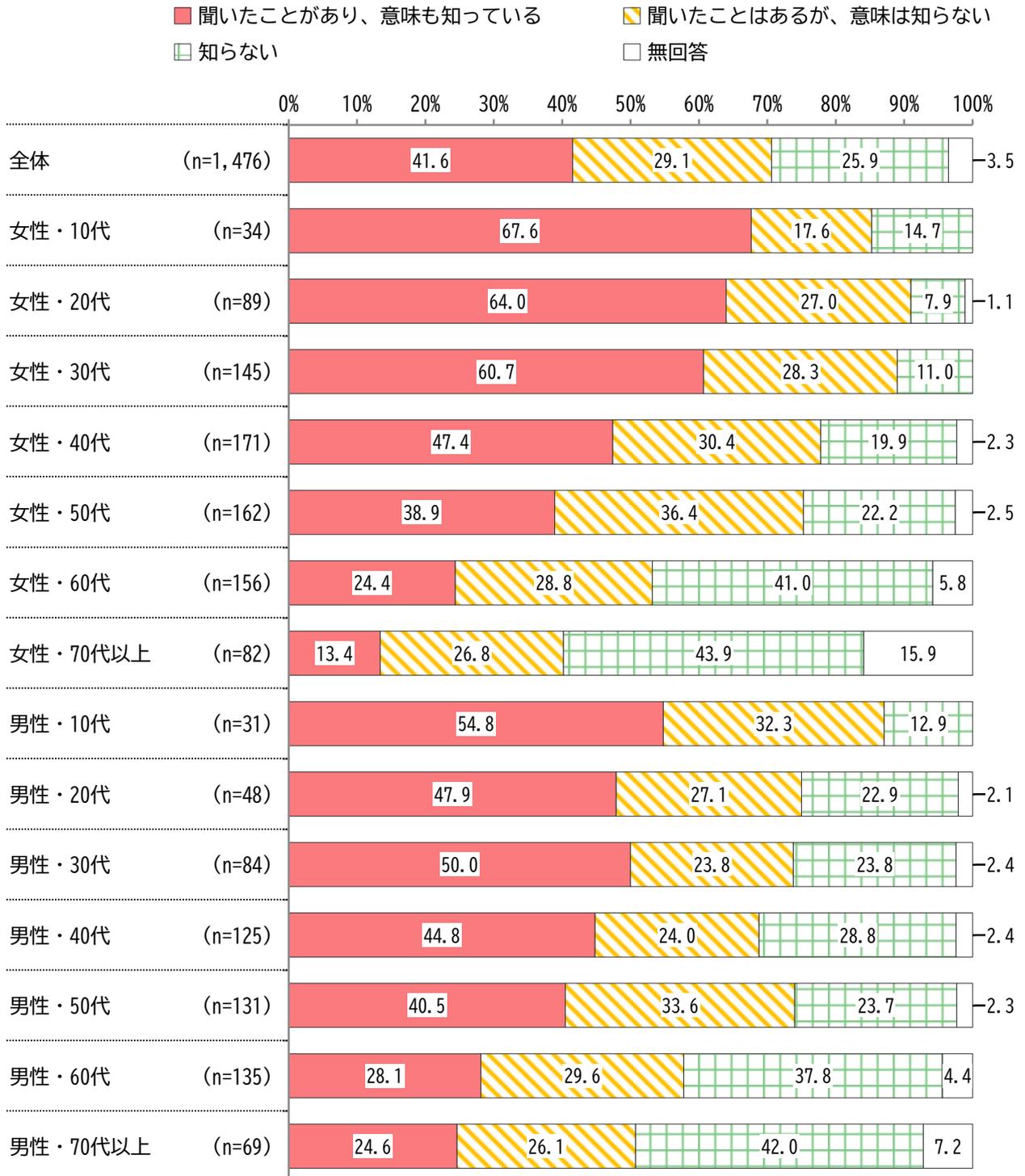
【性別比較】

- 性別でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は女性 43.0%、男性 39.5%となっている。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は女性 29.7%、男性 28.1%で大きな差はみられない。「知らない」は女性 23.6%に対し男性 29.2%となっており、男性の方が言葉自体を知らない割合が高くなっている。



【性・年代別比較】

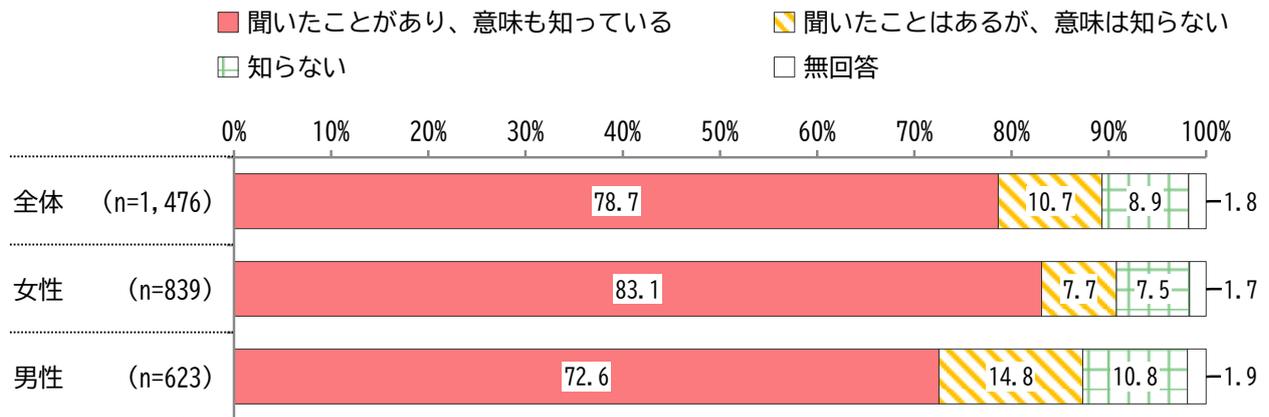
- 性・年代別でみると、女性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が女性・10代(67.6%)、女性・20代(64.0%)、女性・30代(60.7%)と高く、若年層で理解が進んでいる。「知らない」は女性・60代(41.0%)、女性・70代以上(43.9%)で、年代が上がるほど認知が低い。男性では男性・10代(54.8%)、男性・30代(50.0%)で理解が高い一方、「知らない」は男性・60代(37.8%)、男性・70代以上(42.0%)で、女性と同様に高齢層で認知が低い。



④ カミングアウト

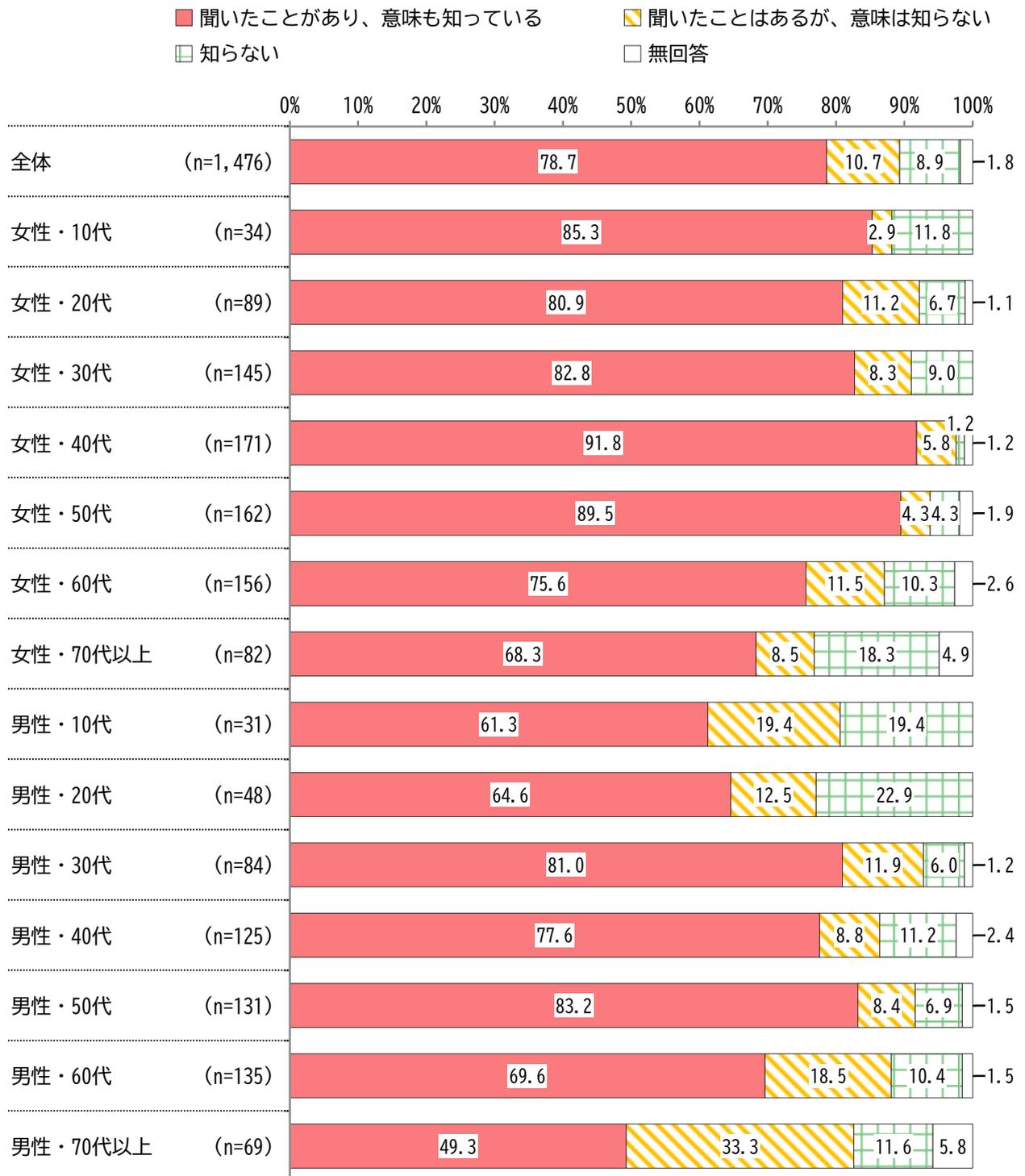
【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が83.1%と高く、男性72.6%より10.5ポイント高い。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は女性が7.7%、男性は14.8%で、男性の理解度の低さがうかがえる。「知らない」は女性7.5%に対し男性10.8%となっており、全般的に男性側で認知が遅れている。



【性・年代別比較】

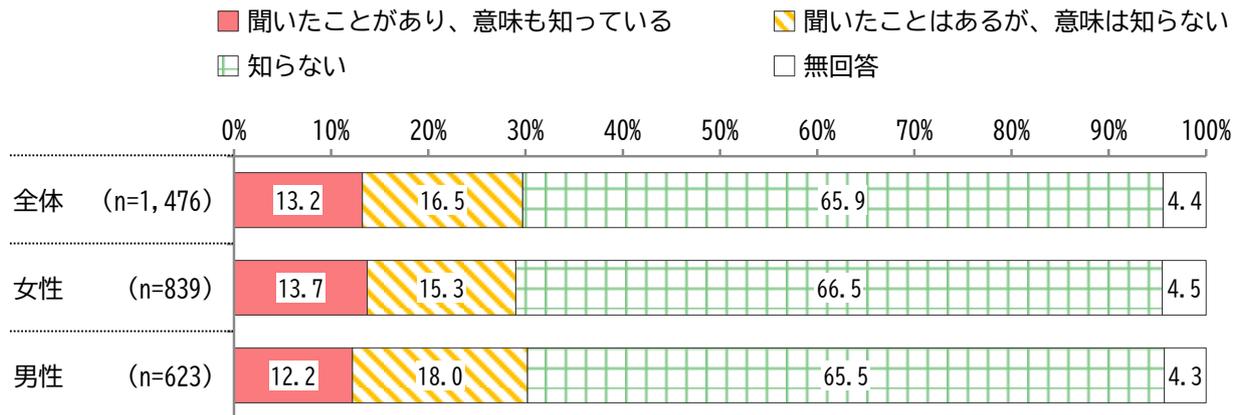
- 性・年代別でみると、女性では「聞いたことがあり、意味も知っている」が40代（91.8%）を最高に全年代で高く、10代（85.3%）、50代（89.5%）と広く浸透している。男性では30代（81.0%）、50代（83.2%）が高い一方、10代（61.3%）、70代以上（49.3%）と年代差が大きい。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性・70代以上（33.3%）で女性・70代以上（8.5%）より24.8ポイント高い。



⑤ アウティング

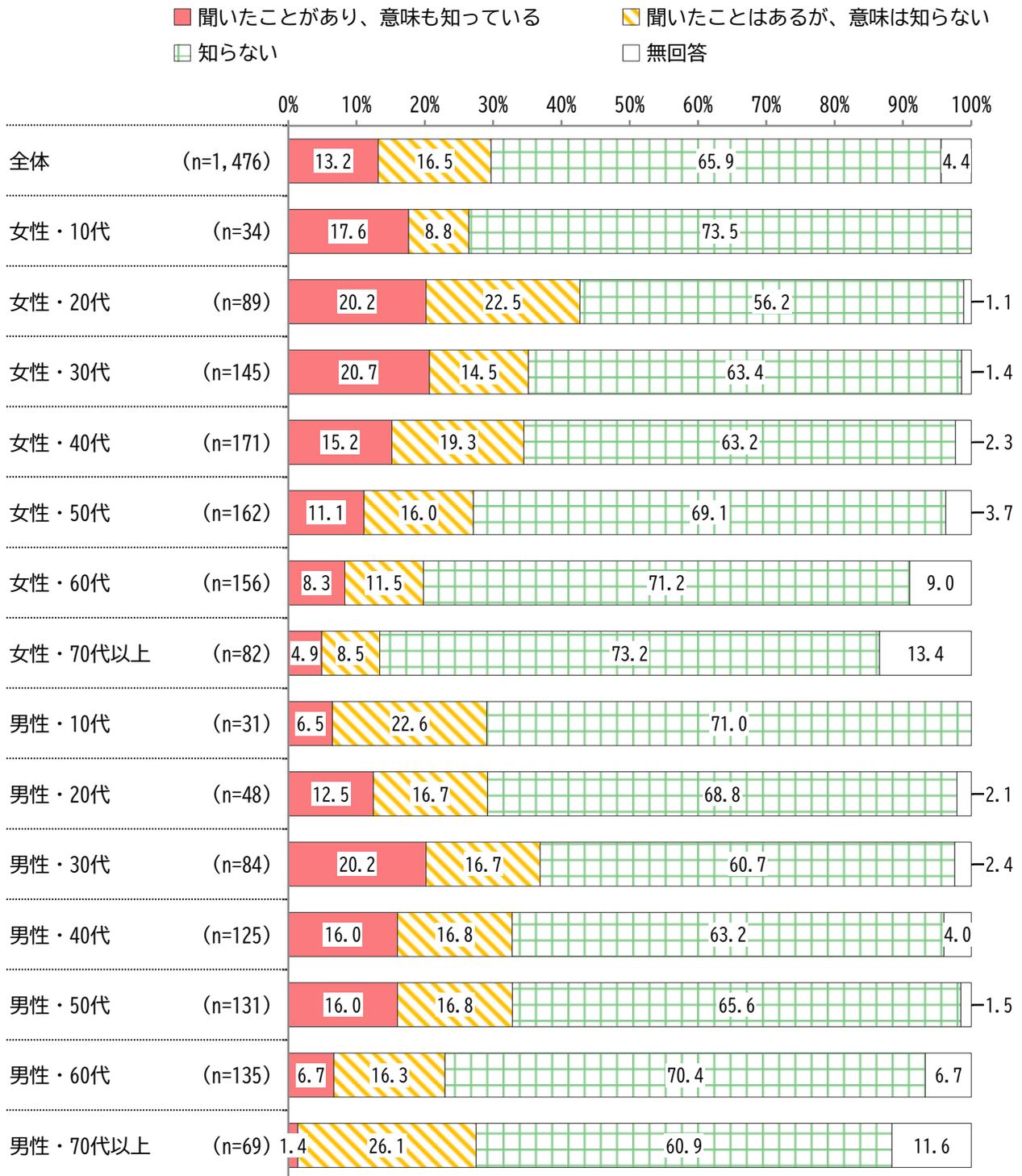
【性別比較】

- 性別でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は女性が13.7%、男性は12.2%で大きな差はないが、いずれも1割台にとどまっている。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性(18.0%)が女性(15.3%)より2.7ポイント高く、男性側で用語だけを知っている層がやや多い。「知らない」は女性が66.5%、男性は65.5%でほぼ同水準となっており、認知度の低さが共通している。



【性・年代別比較】

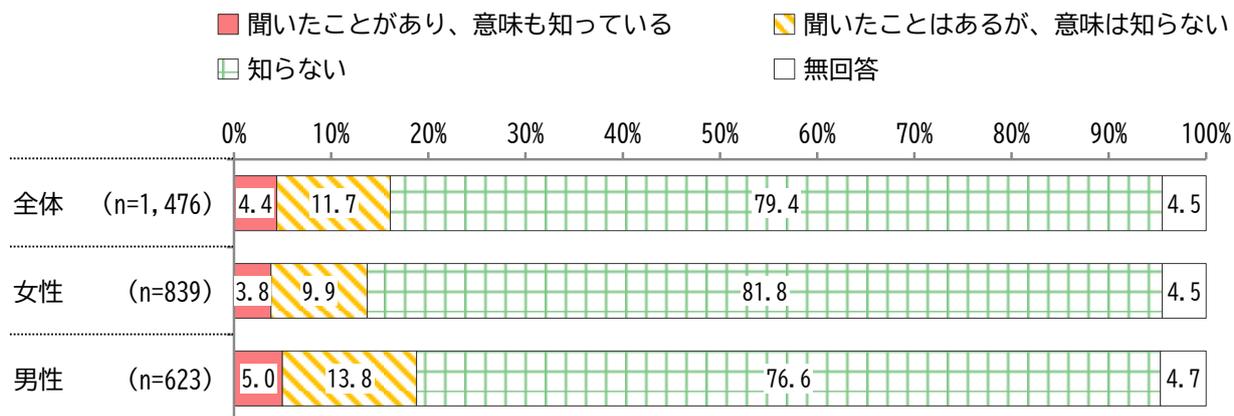
- 性・年代別でみると、女性は「聞いたことがあり、意味も知っている」が女性・10代（17.6%）、20代（20.2%）など若年層で高く、60代（8.3%）、70代以上（4.9%）で低い。男性は男性・30代（20.2%）が最も高く、10代（6.5%）、70代以上（1.4%）は低い。「知らない」は女性・70代以上（73.2%）、男性・60代（70.4%）など高齢層と10代で高い。



⑥ SOGI

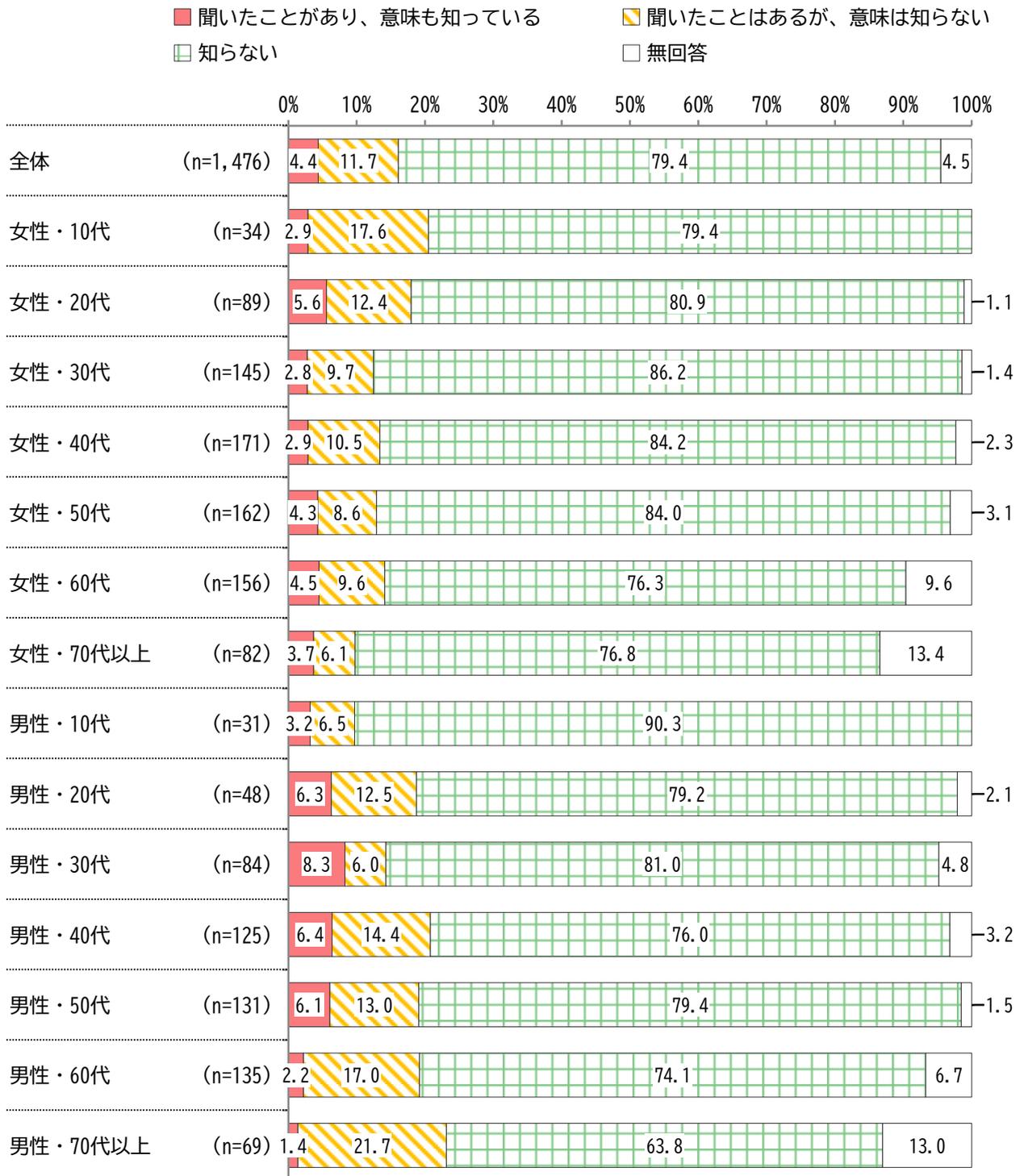
【性別比較】

- 性別で見ると、「知らない」は女性（81.8%）と男性（76.6%）のどちらでも最も高く、性別にかかわらず SOGI の認知は極めて低い。「聞いたことがあり、意味も知っている」は男性（5.0%）、女性（3.8%）ともに1桁台にとどまり、理解が進んでいない。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性（13.8%）が女性（9.9%）よりやや高い。



【性・年代別比較】

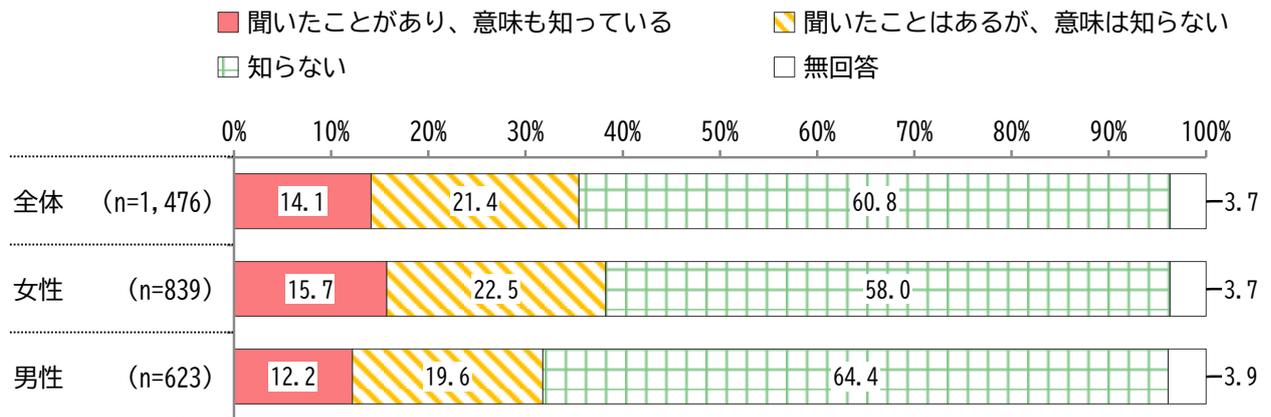
- 性・年代別でみると、「知らない」は女性・30代（86.2%）や女性・40代（84.2%）など全ての層で最も高く、全年代で認知が進んでいない。「聞いたことがあり、意味も知っている」は男性・30代（8.3%）、男性・40代（6.4%）が比較的高いが、いずれも1桁台にとどまる。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性・70代以上（21.7%）が他の年代より高い。



⑦ 沖縄県パートナーシップ・ファミリーシップ制度

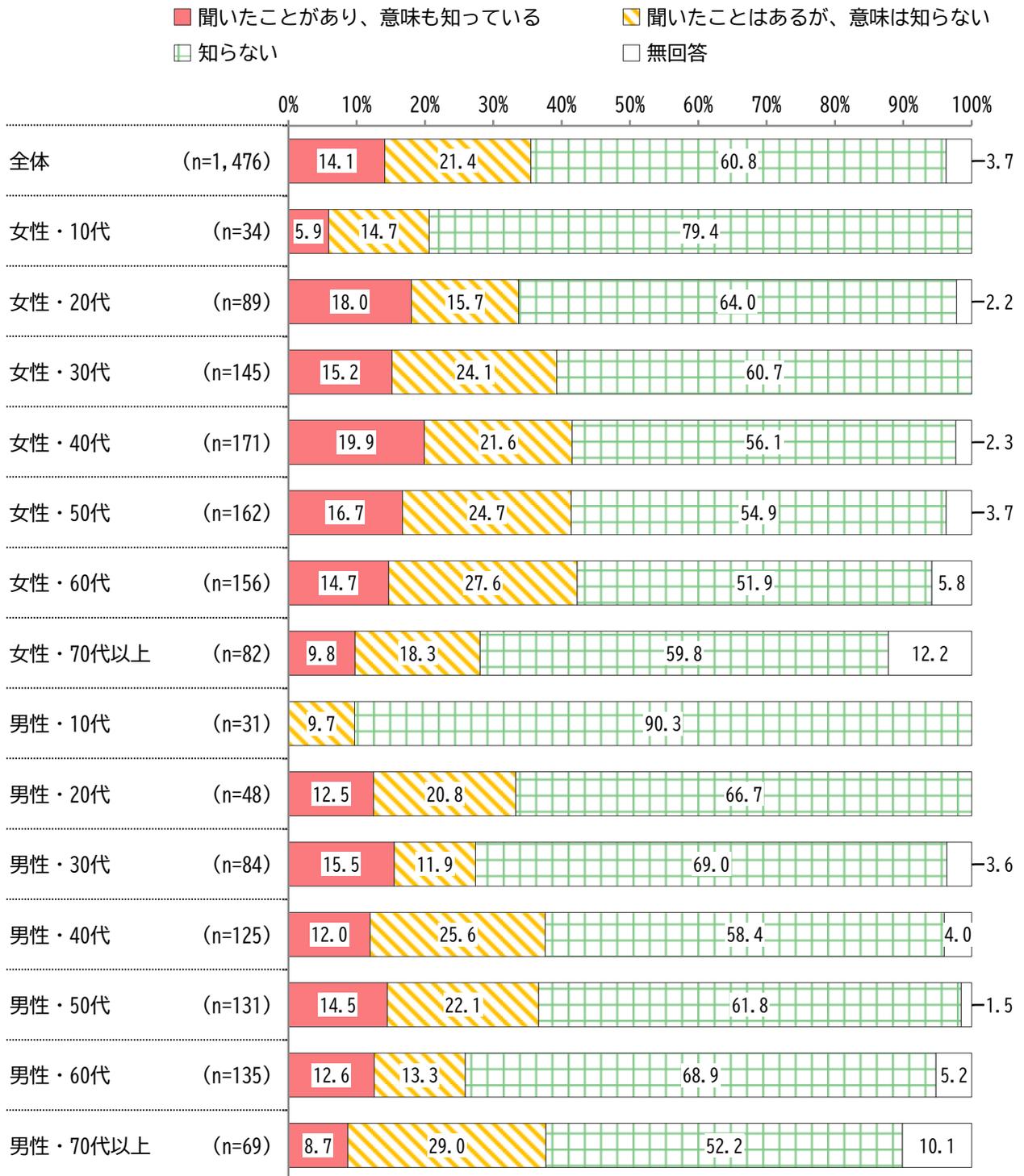
【性別比較】

- 性別でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は女性（15.7%）の方が男性（12.2%）より高い。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は女性（22.5%）が男性（19.6%）を上回る。「知らない」は男性（64.4%）が女性（58.0%）より 6.4 ポイント高く、男性の認知度が低い傾向がみられる。



【性・年代別比較】

- 性・年代別でみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は女性・40代（19.9%）が最も高く、女性・20代（18.0%）が続く。「聞いたことはあるが、意味は知らない」は男性・70代以上（29.0%）が最も高い。「知らない」は男性・10代（90.3%）が突出して高く、若年男性を中心に制度の認知が進んでいない。



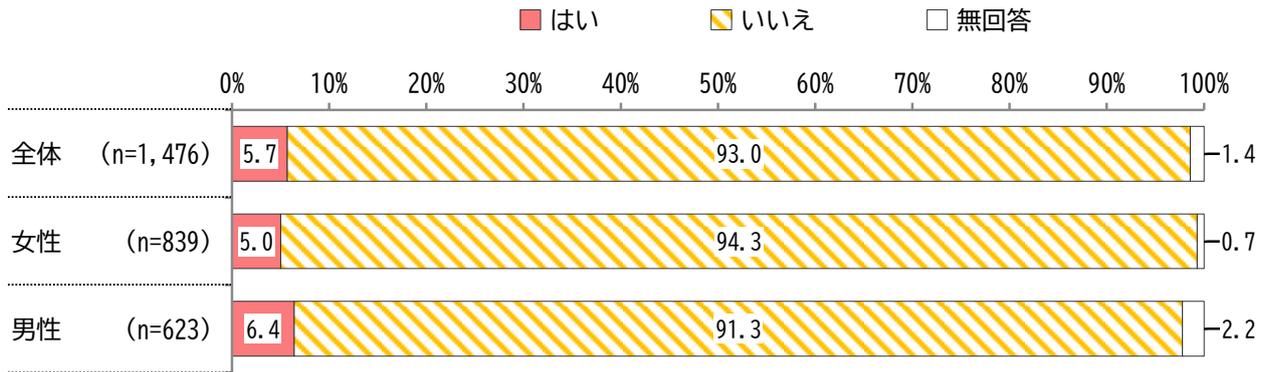
(2) 体の性、心の性または性的指向について悩んだ経験

問 23 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。
(○は1つ)

- 全体では、「いいえ」が93.0%、「はい」が5.7%となっている。

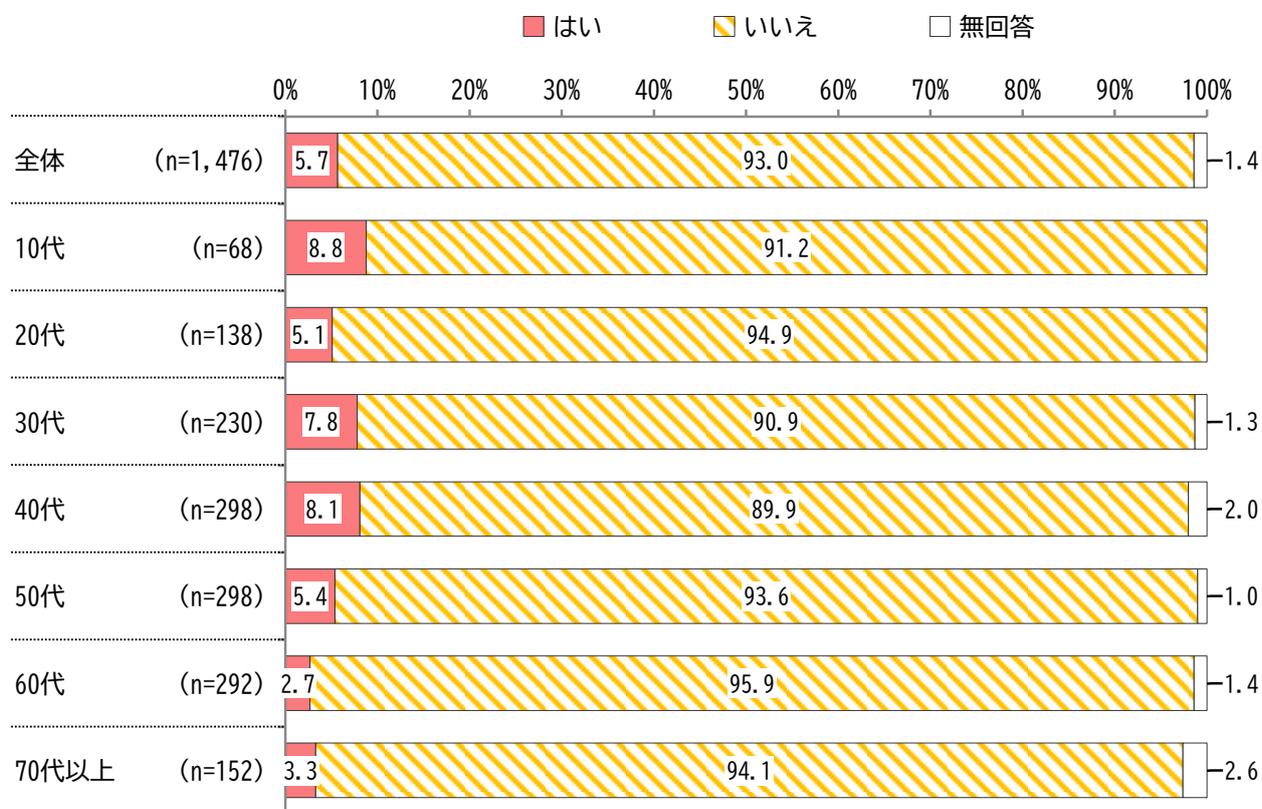
【性別比較】

- 性別で見ると、男女で大きな差はみられない。



【年代別比較】

- 年代別にみると、「はい」は10代（8.8%）と40代（8.1%）で比較的高く、30代（7.8%）が続く。50代（5.4%）と20代（5.1%）は中位で、60代（2.7%）と70代以上（3.3%）は他の年代より低い。若年層と40代で悩み経験の割合がやや高く、60代以上では少ない傾向がみられる。



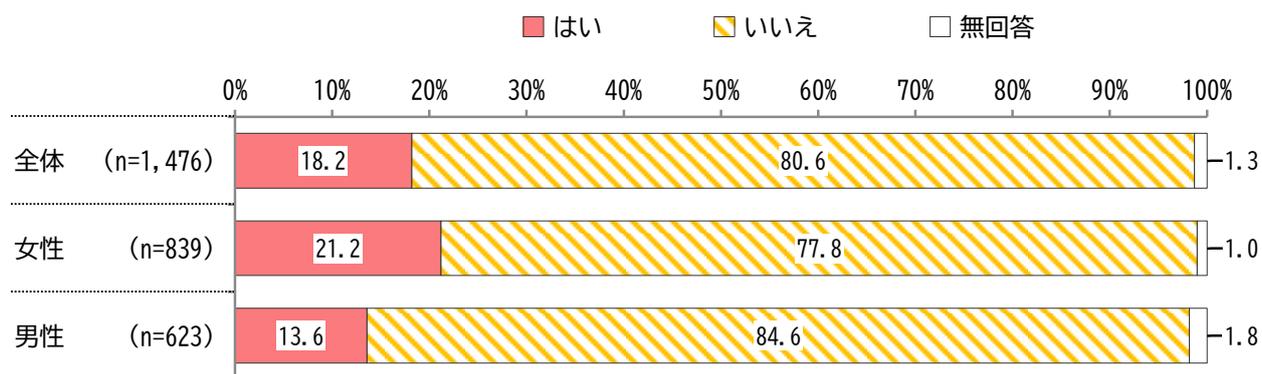
(3) 性的少数者であることを打ち明けられた経験

問 24 あなたは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）であることを打ち明けられたことがありますか。（○は1つ）

- 全体では、「いいえ」が80.6%、「はい」が18.2%となっている。

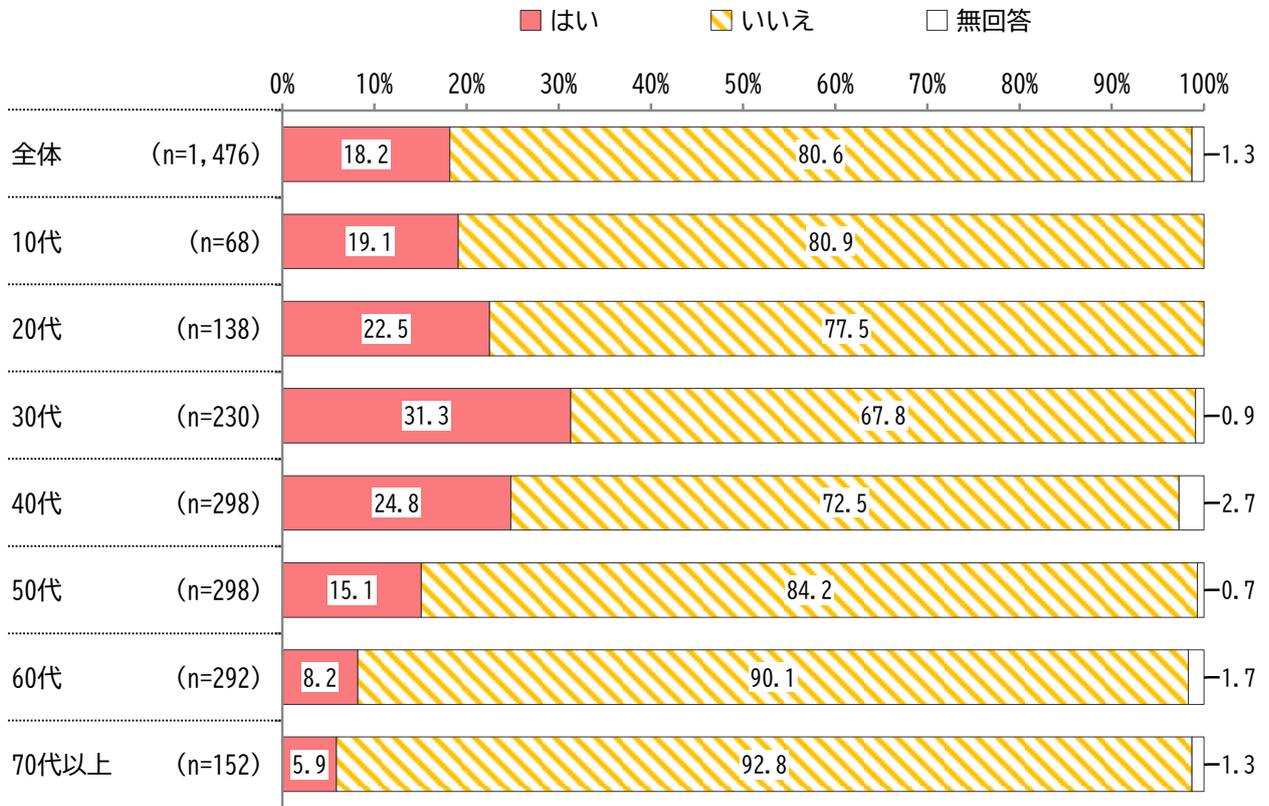
【性別比較】

- 性別で見ると、「はい」は女性が21.2%で最も高く、男性は13.6%となっており、打ち明けられた経験のある割合に差がみられる。



【年代別比較】

- 年代別にみると、30代（31.3%）が最も高く、40代（24.8%）と20代（22.5%）が続く。10代（19.1%）と50代（15.1%）はそれより低く、60代（8.2%）と70代以上（5.9%）はさらに低い。若い世代から40代にかけて打ち明けられた経験が比較的多く、年代が高くなるほど割合が下がる。



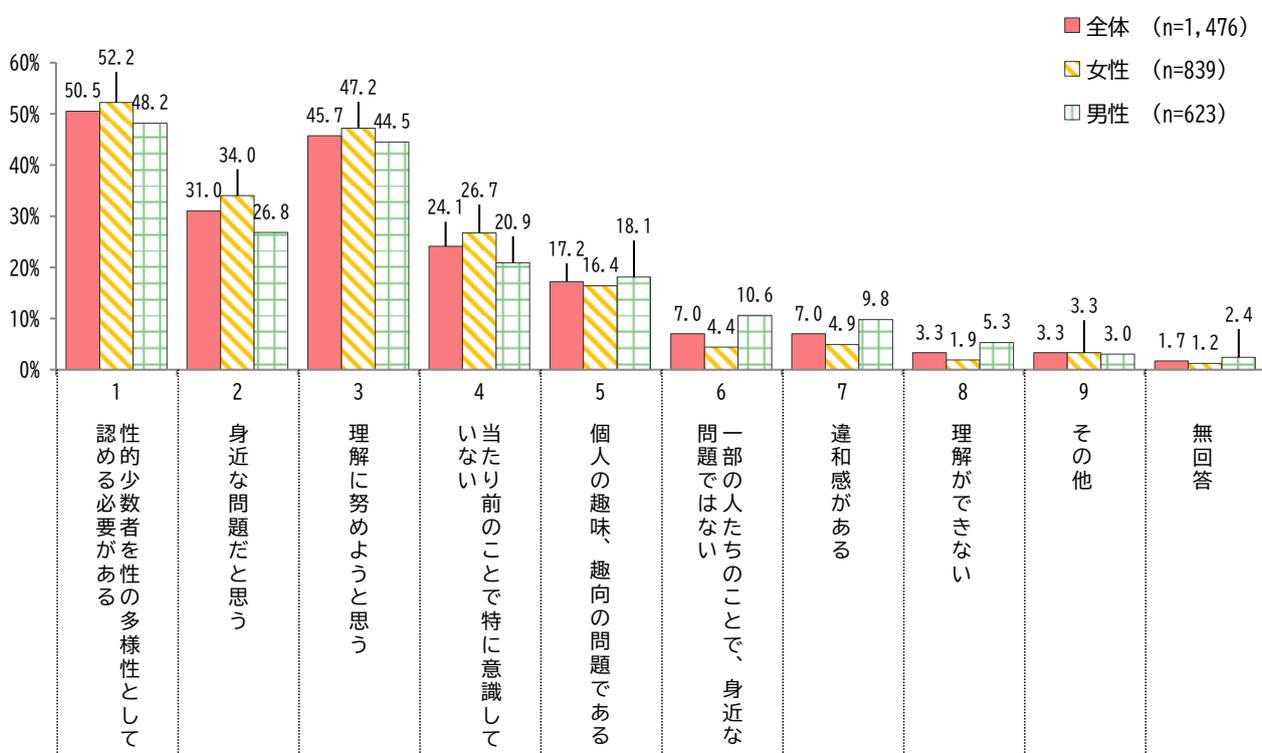
(4) 性の多様性についての考え方

問 25 あなたは、性の多様性について、どのようなお考えをお持ちですか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「1.性的少数者を性の多様性として認める必要がある」が50.5%で最も高く、次いで「3.理解に努めようと思う」が45.7%、「2.身近な問題だと思う」が31.0%となっている。

【性別比較】

- 性別でみると、男女ともに「1.性的少数者を性の多様性として認める必要がある」が最も高く、次いで「3.理解に努めようと思う」が高い。「2.身近な問題だと思う」は、女性(34.0%)が男性(26.8%)より7.2ポイント高い。「6.一部の人のたちの中で、身近な問題ではない」は男性(10.6%)が女性(4.4%)より4.9ポイント高い。



【年代別比較】

- 年代別にみると、「1.性的少数者を性の多様性として認める必要がある」は40代（56.4%）が最も高く、50代（52.7%）、70代以上（50.7%）が続き、中高年層で支持が強い。「3.理解に努めようと思う」は60代（55.1%）と70代以上（53.9%）が高く、上の年代ほど積極的に理解しようとする傾向がある。「5.個人の趣味、趣向の問題である」は70代以上（21.1%）と30代（22.2%）が比較的高く、受け止め方に年代差がみられる。

(%)

		n	1. 性的少数者を性の多様性として認める必要がある	2. 身近な問題だと思う	3. 理解に努めようと思う	4. 当たり前なことで特に意識していない	5. 個人の趣味、趣向の問題である	6. 一部の人のことと、身近な問題ではない	7. 違和感がある
全体		1,476	50.5	31.0	45.7	24.1	17.2	7.0	7.0
年代	10代	68	42.6	33.8	33.8	33.8	13.2	5.9	5.9
	20代	138	42.0	37.7	34.8	37.0	20.3	2.2	5.1
	30代	230	49.6	37.0	40.0	33.5	22.2	6.1	3.9
	40代	298	56.4	32.6	43.0	28.2	13.4	3.0	5.0
	50代	298	52.7	29.9	47.3	19.8	14.1	7.7	5.7
	60代	292	48.6	25.7	55.1	13.7	17.8	10.3	9.9
	70代以上	152	50.7	23.7	53.9	14.5	21.1	13.2	14.5
		n	8. 理解ができない	9. その他	無回答				
全体		1,476	3.3	3.3	1.7				
年代	10代	68	1.5	8.8	1.5				
	20代	138	4.3	2.2	-				
	30代	230	0.9	5.7	0.4				
	40代	298	1.3	4.0	2.7				
	50代	298	3.7	1.7	0.3				
	60代	292	3.4	2.1	2.1				
	70代以上	152	9.9	2.6	5.3				

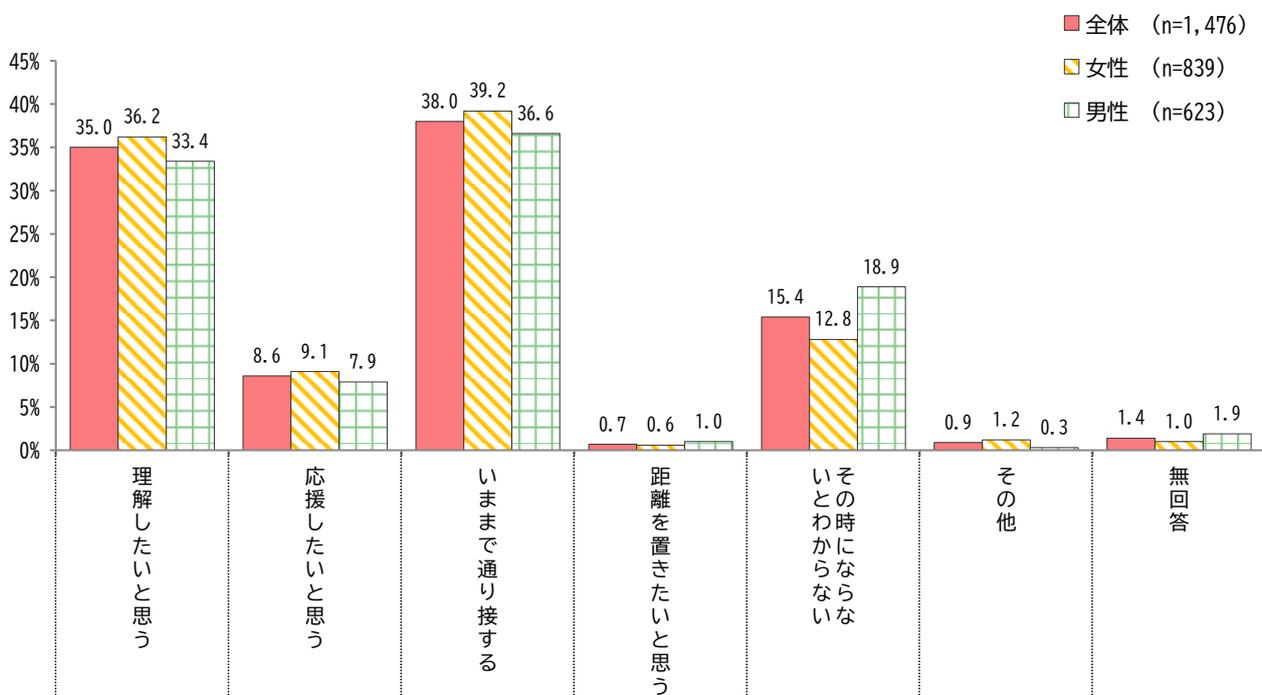
(5) 身近な方から性的少数者であることを打ち明けられた場合の対応 ……………

問 26 あなたは、家族や友人など身近な方から性的少数者（セクシュアルマイノリティ）であることを打ち明けられたとしたら、どのように思いますか。（○は1つ）

- 全体では、「いままで通り接する」が38.0%で最も高く、次いで「理解したいと思う」が35.0%、「その時にならないとわからない」が15.4%となっている。

【性別比較】

- 性別でみると、女性は「理解したいと思う」（36.2%）と「いままで通り接する」（39.2%）が高く、肯定的な受け止めが中心となっている。男性も同様に「理解したいと思う」（33.4%）と「いままで通り接する」（36.6%）が多いが、「その時にならないとわからない」（18.9%）が女性（12.8%）より6.1ポイント高い。



【年代別比較】

- 年代別にみると、10代は「いままで通り接する」が50.0%と最も高い。20代も「いままで通り接する」(47.8%)が中心で、「理解したいと思う」が23.2%となっている。30代は「いままで通り接する」(40.9%)が最も高く、「理解したいと思う」(33.0%)が続く。40代も「いままで通り接する」(39.3%)が高い。50代は「理解したいと思う」(40.3%)が最も高い。60代、70代以上は「理解したいと思う」が最も高い(36.3%、36.8%)が「その時にならないとわからない」(21.9%、26.3%)が他の年代より高い。

(%)

	n	理解したい と思う	応援したい と思う	いままで通 り接する	距離を置き たいと思う	その時にな らないとわ からない	その他	無回答	
全体	1,476	35.0	8.6	38.0	0.7	15.4	0.9	1.4	
年代	10代	68	26.5	8.8	50.0	1.5	13.2	-	-
	20代	138	23.2	11.6	47.8	-	15.2	1.4	0.7
	30代	230	33.0	13.0	40.9	0.4	10.4	1.7	0.4
	40代	298	36.6	9.7	39.3	0.7	11.4	0.7	1.7
	50代	298	40.3	10.4	35.9	0.3	11.7	1.0	0.3
	60代	292	36.3	3.8	34.2	0.7	21.9	0.3	2.7
	70代以上	152	36.8	2.6	28.3	2.6	26.3	0.7	2.6

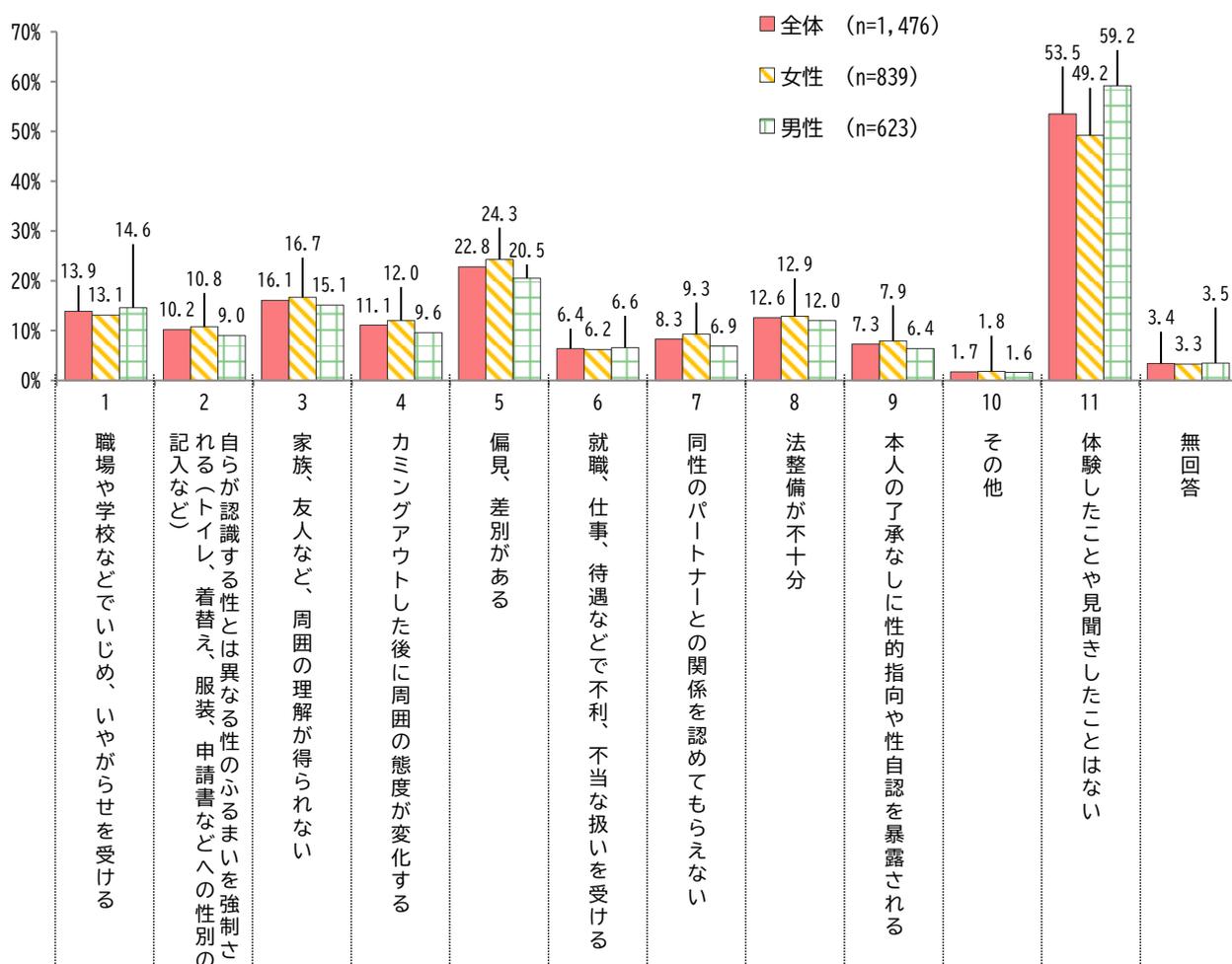
(6) 性的少数者に関して体験したことや見聞きしたこと ……………

問 27 あなたが性的少数者（セクシュアルマイノリティ）に関して体験したことや、身の回りで見聞きしたことはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- 全体では、「11.体験したことや見聞きしたことはない」が 53.5%で最も高く、次いで「5.偏見、差別がある」が 22.8%、「3.家族、友人など、周囲の理解が得られない」が 16.1%となっている。

【性別比較】

- 性別でみると、「11.体験したことや見聞きしたことはない」は女性が 49.2%、男性は 59.2%となり、男性の割合が 10.0 ポイント高い。「5.偏見、差別がある」は女性が 24.3%、男性は 20.5%で女性が 3.8 ポイント高い。「3.家族、友人など、周囲の理解が得られない」は女性が 16.7%、男性は 15.1%で女性が 1.6 ポイント高い。



【年代別比較】

- 年代別にみると、「11.体験したことや聞きしたことはない」は10代を除いて年代が上がるほど高く、60代(59.2%)と70代以上(60.5%)が特に高い。「5.偏見、差別がある」は30代(27.4%)が最も高く、次いで50代(24.5%)となっている。「3.家族、友人など、周囲の理解が得られない」は30代(23.5%)が最も高い。「8.法整備が不十分」は30代(17.0%)、40代(14.4%)が比較的高い。

(%)

		n	1. 職場や学校などでいじめ、いやがらせを受ける	2. 自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強制される(トイレ、着替え、服装、申請書などへの性別の記入など)	3. 家族、友人など、周囲の理解が得られない	4. カミングアウトした後に周囲の態度が変化する	5. 偏見、差別がある	6. 就職、仕事、待遇などで不利、不当な扱いを受ける	7. 同性のパートナーとの関係を認められない
全体		1,476	13.9	10.2	16.1	11.1	22.8	6.4	8.3
年代	10代	68	10.3	7.4	14.7	13.2	19.1	1.5	7.4
	20代	138	15.2	11.6	13.8	10.1	23.2	8.0	11.6
	30代	230	15.7	12.6	23.5	13.5	27.4	6.1	14.3
	40代	298	13.4	14.8	18.8	10.4	23.8	6.4	8.4
	50代	298	17.8	11.4	20.5	15.4	24.5	8.7	9.4
	60代	292	10.3	5.1	7.9	7.5	18.5	4.1	3.8
	70代以上	152	11.8	4.6	9.9	7.2	19.7	7.9	3.3
		n	8. 法整備が不十分	9. 本人の了承なしに性的指向や性自認を暴露される	10. その他	11. 体験したことや聞きしたことはない	無回答		
全体		1,476	12.6	7.3	1.7	53.5	3.4		
年代	10代	68	10.3	1.5	-	67.6	-		
	20代	138	8.7	13.0	2.2	47.1	2.2		
	30代	230	17.0	12.6	1.3	47.8	2.2		
	40代	298	14.4	5.4	1.7	49.0	3.4		
	50代	298	12.1	10.1	2.3	52.7	2.3		
	60代	292	11.6	3.8	1.7	59.2	5.1		
	70代以上	152	9.9	2.0	1.3	60.5	6.6		

【問 23 「自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか」の回答別比較】

- 問 23 で今までに自分の体の性、心の性または性的指向について悩んだことがあると回答した人（「はい」と回答）では、「5.偏見、差別がある」が 33.3%で高く、全体の 22.8%より 10.5 ポイント高くなっている。次いで「3.家族、友人など、周囲の理解が得られない」が 27.4%で全体(16.1%)より 11.3 ポイント高い。
- 今までに自分の体の性、心の性または性的指向について悩んだことがないと回答した人（「いいえ」と回答）では、各項目の割合はいずれも全体と近い水準となっており、「5.偏見、差別がある」は 22.2%、「3.家族、友人など、周囲の理解が得られない」は 15.6%となっている。

(%)

		n	1. 職場や学校などでいじめ、いやがらせを受ける	2. 自らが認識する性と異なる性のふるまいを強制される(トイシ、着替え、服装、申請書などへの性別の記入など)	3. 家族、友人など、周囲の理解が得られない	4. カミングアウトした後周囲の態度が変化する	5. 偏見、差別がある	6. 就職、仕事、待遇などで不利、不当な扱いを受ける	7. 同性のパートナーとの関係を認めてもらえない
全体		1476	13.9	10.2	16.1	11.1	22.8	6.4	8.3
はい	全体	84	23.8	14.3	27.4	14.3	33.3	14.3	13.1
	女性	42	26.2	11.9	21.4	11.9	35.7	14.3	9.5
	男性	40	20.0	12.5	30.0	12.5	27.5	12.5	15.0
いいえ	全体	1372	13.4	10.0	15.6	11.1	22.2	6.0	8.2
	女性	791	12.4	10.7	16.6	12.1	23.9	5.8	9.4
	男性	569	14.6	9.0	14.2	9.7	20.0	6.2	6.5
		n	8. 法整備が不十分	9. 本人の了承なしに性的指向や性的自認を暴露される	10. その他	11. 体験したことや見聞きしたことはない	無回答		
全体		1476	12.6	7.3	1.7	53.5	3.4		
はい	全体	84	21.4	15.5	3.6	35.7	-		
	女性	42	21.4	16.7	2.4	23.8	-		
	男性	40	20.0	12.5	5.0	50.0	-		
いいえ	全体	1372	12.2	6.8	1.5	55.1	2.8		
	女性	791	12.5	7.5	1.6	50.9	3.0		
	男性	569	11.8	5.8	1.4	60.8	2.6		

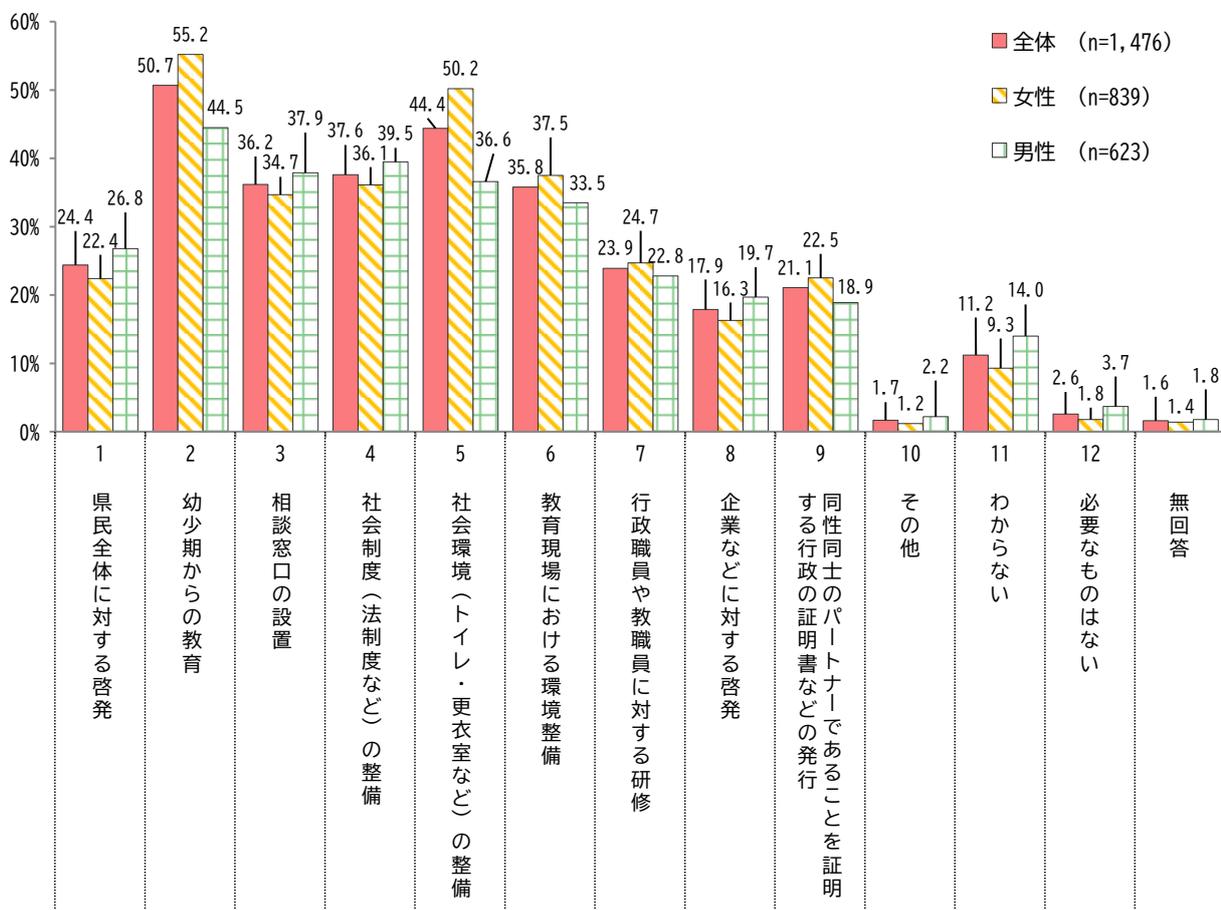
(7) 性の多様性に関する取組として必要なこと

問 28 あなたは、性の多様性に関する取組としてどのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 全体では、「2.幼少期からの教育」が50.7%で最も高く、次いで「5.社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」が44.4%、「4.社会制度（法制度など）の整備」が37.6%となっている。

【性別比較】

- 性別で見ると、女性では「2.幼少期からの教育」が55.2%で高く、男性は44.5%となっている。男性は女性よりも「1.県民全体に対する啓発」が4.4ポイント高く、「5.社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」は男性（36.6%）が女性（50.2%）よりも13.6ポイント低い。



【年代別比較】

- 年代別でみると、「1.幼少期からの教育」は10代（63.2%）が最も高く、40代（59.1%）、30代（54.3%）が続いている。「3.相談窓口の設置」は70代以上（47.4%）が最も高く、「6.教育現場における環境整備」は50代（39.9%）が最も高い。「5.社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」は10代（50.0%）が最も高い。

(%)

		n	1. 県民全体 に対する啓 発	2. 幼少期か らの教育	3. 相談窓口 の設置	4. 社会制度 (法制度な ど)の整備	5. 社会環境 (トイレ・ 更衣室な ど)の整備	6. 教育現場 における環 境整備	7. 行政職員 や教職員に 対する研修
全体		1,476	24.4	50.7	36.2	37.6	44.4	35.8	23.9
年代	10代	68	14.7	63.2	25.0	29.4	50.0	32.4	13.2
	20代	138	14.5	53.6	26.8	31.2	41.3	25.4	16.7
	30代	230	22.2	54.3	29.1	36.1	45.2	38.7	17.8
	40代	298	24.2	59.1	31.2	36.6	45.3	33.2	23.8
	50代	298	26.5	48.7	38.6	43.3	46.0	39.9	26.8
	60代	292	28.4	42.8	45.5	40.4	41.8	36.3	28.4
	70代以上	152	29.6	40.1	47.4	34.9	44.1	38.8	30.3
		n	8. 企業など に対する啓 発	9. 同性同士 のパート ナーである ことを証明 する行政の 証明書など の発行	10. その他	11. わから ない	12. 必要な ものはない	無回答	
全体		1,476	17.9	21.1	1.7	11.2	2.6	1.6	
年代	10代	68	5.9	17.6	1.5	16.2	2.9	-	
	20代	138	11.6	21.0	2.2	8.0	5.1	0.7	
	30代	230	17.4	30.4	2.6	9.1	3.0	0.9	
	40代	298	15.8	25.2	2.0	9.7	2.0	2.7	
	50代	298	21.5	19.1	2.0	10.4	3.4	0.7	
	60代	292	22.3	15.4	0.7	13.4	1.4	2.1	
	70代以上	152	18.4	15.1	0.7	15.8	1.3	2.6	

【問 23 「自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか」の回答別比較】

- 問 23 で今までに自分の体の性、心の性または性的指向について悩んだことがあると回答した人（「はい」と回答）では、「2.幼少期からの教育」が 52.4%で最も高くなっている。
- 今までに自分の体の性、心の性または性的指向について悩んだことがないと回答した人（「いいえ」と回答）では、全体とほぼ同水準の項目が多くなっている。

(%)

		n	1. 県民全体 に対する啓 発	2. 幼少期か らの教育	3. 相談窓口 の設置	4. 社会制度 (法制度な ど)の整備	5. 社会環境 (トイレ・ 更衣室な ど)の整備	6. 教育現場 における環 境整備	7. 行政職員 や教職員に 対する研修
全体		1476	24.4	50.7	36.2	37.6	44.4	35.8	23.9
はい	全体	84	23.8	52.4	38.1	41.7	35.7	31.0	28.6
	女性	42	21.4	45.2	35.7	38.1	40.5	26.2	31.0
	男性	40	25.0	57.5	40.0	45.0	27.5	35.0	27.5
いいえ	全体	1372	24.8	51.1	36.2	37.6	45.4	36.4	23.8
	女性	791	22.6	55.9	34.6	36.3	50.8	38.2	24.4
	男性	569	27.6	44.3	38.1	39.4	38.0	34.1	22.8
		n	8. 企業など に対する啓 発	9. 同性同士 のパート ナーである ことを証明 する行政の 証明書など の発行	10. その他	11. わからな い	12. 必要なも のではない	無回答	
全体		1476	17.9	21.1	1.7	11.2	2.6	1.6	
はい	全体	84	15.5	23.8	6.0	8.3	2.4	-	
	女性	42	11.9	19.0	7.1	9.5	-	-	
	男性	40	17.5	27.5	5.0	7.5	5.0	-	
いいえ	全体	1372	18.3	21.1	1.5	11.5	2.6	0.9	
	女性	791	16.7	22.8	0.9	9.4	1.9	1.0	
	男性	569	20.4	18.8	2.1	14.6	3.5	0.7	

(8) 分析・考察

前回の調査と比較して、性の多様性に関する言葉の認知度は向上している。特に「カミングアウト」や「LGBT」、「LGBTQ」といった言葉に関しては、大きく認知度が上がっている。一方で「SOGI」や「アウトティング」など、パワハラ防止法によって罰則の対象となりうる用語の理解が進んでいないことは、大きな懸念である。また「沖縄県パートナーシップ・ファミリーシップ制度」に関する認知度も低く、当事者が制度を利用する際に、周りの理解不足でトラブルが発生する可能性もある。これらの人権に関わる用語の理解促進は急務である。

男女の地位や家庭生活、社会通念や性暴力、伝統文化の慣習や職場環境などジェンダー平等に関わる分野の調査結果から、多くの沖縄県民が未だ性別を男女の二文法的に捉え、男女間に明確な不平等も存在することから、性の多様性への意識醸成は、まだまだ道半ばといえるだろう。実生活での平等感に比べ、理念としてのジェンダー平等が根付いていない沖縄県ではジェンダー規範の束縛も少なくなく、多様な性自認・性的指向をもつ人々にとって生きづらさを感じ、自己否定に陥る可能性が高い社会といえる。カミングアウトされた経験の割合が、2割弱にとどまっているのも、「性的少数者に関して体験したことや、身の周りで見聞きしたこと」がないと半数以上が答えたのも、当事者が安心して打ち明けられる社会環境が整っていないことが原因と考えられる。

性の多様性に関する考えでは、「認める必要がある」や「理解に努めようと思う」が約半数を占め、全体的に肯定的な姿勢が見られる。若年層では「当たり前なことと特に意識していない」が回答の上位を占め、50代以上との世代間ギャップが顕著である。政治では近年、性の多様性に対するバックラッシュ現象も見受けられ、若い世代との価値観や感覚とは大きな乖離が見受けられる。今後は若い世代がその意識を持って、性の多様性が自然に受け入れられる社会を作っていくだろうと予想できるが、そのためには彼らの地域社会や政治への参画が不可欠となる。

性の多様性に関する必要な取組としては、「幼少期からの教育」が半数を占め、最も高い。「社会環境（トイレ・更衣室など）の整備」及び「教育現場における環境整備」などの社会インフラの必要性も高く、「社会制度（法律など）の整備」が必要との声もあがっている。また、性の多様性に関する必要な取組として3割以上の人が「相談窓口の設置」を上げているが、セクハラやDV被害同様、相談窓口や支援制度が十分に整わず、その認知度も低いとなると、当事者が一人で悩みや困難を抱え込むことになる。

若い世代における性の多様性への意識の高まりは、主にSNSやインターネットなどメディア由来なのかもしれない。しかしそれらの情報源の信頼性が高いとは限らず、中には誤りや偏見・差別、ヘイトによるものもあると予想される。調査結果に依るならば、「幼少期からの教育」現場での適切な情報提供と理解促進、関連団体による有効性の高い講座の実施などが行政には求められている。

性の多様性の尊重は、「沖縄県性の多様性尊重宣言」でも示されている通り、人権や生命の尊重でもある。ゆえにすべての県民が自分らしく安心して暮らせる社会づくりの基本であり、ジェンダー平等推進同様、今後の沖縄県の男女共同参画政策において欠かせない重要な事項である。

(沖縄キリスト教学院大学 新垣 誠)